

教育旅行受入事業者における 新型コロナウイルス感染症対策について

2020年10月12日（月）

◎ 旅行会社としての基本取組

- 新型コロナウイルスに関する最新情報の収集・提供
- 感染発生時等に備えた危機管理体制の構築
 - ・旅行先の相談窓口（保健所等）及び医療機関の連絡先を共有
- 関係各所への協力依頼と確認の励行
- 学校様へのご協力とお願い
 - ・児童生徒様の体調管理・感染防止対策の徹底（出発前・旅行中）

◎ 保護者様が心配なこと (某公立中学校実施アンケートより)



- ・当日朝、学校にておでこにピツとするタイプの体温計で全員測定し、発熱している場合は連れていかないなどの対処はしてもいいかと思います。
- ・同意書を書いてもらい体調管理を徹底してほしいと思います。 出発前
- ・手洗いや消毒の徹底、マスクを外す食事中や入浴での飛沫対策をしっかり実施してほしい。 旅行中
- ・宿泊先の安全管理の徹底と安全配慮を行い実施してほしい。
- ・バスに関して、歌ったり出来ないのならバスガイドはいなくてもいいと思う。大体、話を聞かないだろうし…。
- ・子供達が常に密の状態になってしまうことが心配です。
- ・食事に関してバイキング形式はやめて欲しい。
- ・マスクの着用と消毒を生徒にしっかり指導していただければと思います。
- ・班ごとに行動する場合、誰がどこで誰と接触しているか把握しきれないのでは？
(見学場所を決めて、クラスごとの行動が出来れば、接触者を減らすことができると思います。)
- ・旅行先での体調不良の場合の対応をしっかりとお願いします。
- ・修学旅行で感染して、各家庭に持って帰られることは避けていただきたい。
- ・修学旅行中の感染により、家族に二次感染が起こることを懸念します。
- ・生徒が感染すること、旅行先で感染を広めてしまうことが心配です。

感染リスク が心配

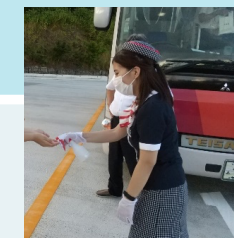
感染拡大 が心配

◎ 関係各所における対策（鉄道・航空編）

場面		対策
駅・空港での 集合・到着・待機	到着/出発時	・同行添乗員等が、可能な限り開放した広い場所を確保し、 クラスや列の間隔・前後の隊形に余裕を持たせた場所にて待機
	待機中	・トイレ等の利用時、長蛇の列にならないよう複数の箇所をご案内 ・体調不良の児童・生徒様が出た場合は、救護室を手配し、 団体とは異なる場所をご案内
駅・空港での 乗車・搭乗	移動中	・駅構内や空港ターミナルでの移動が長蛇の列とならないよう、 駅係員や空港係員と連携して、一定の間隔をあけてご案内
	乗車・搭乗中	・駅係員や空港係員と連携して、一定の間隔をあけてご案内
列車内 航空機内	列車/航空機内	・体調不良の児童生徒様が出た場合は、 可能な限り隔離スペースを準備 ・機内サービスはマスク・手袋着用にて実施

◎ 関係各所における対策（貸切バス・タクシー編）

場面	対策
運行前	・ 運行バス会社やタクシー会社に消毒液と清拭消毒用具搭載を確認 ・ 乗務員の乗務前検温等健康チェックを徹底、体調不良者の乗務停止（代替乗務員を手配要請） ・ 運行前に車内消毒を実施
運転中	・ 運転手・バスガイドにはマスクの着用を徹底 ・ 外気導入モードによるエアコンの使用を基本とした換気を励行 また、現場判断により、お客様のご協力を得て、随時窓の開放を行い、車内換気を徹底 ・ SAなどでの休憩の際、お客様降車後に外気導入モードによるエアコンの使用と窓を開けて換気する等の車内換気を励行
乗車時 降車時	・ 乗車時や再乗車時、児童生徒様に手指消毒の実施 ・ 通路で児童・生徒様の滞留が起きないように、小グループに分けて乗降車を案内 ・ 通常よりも乗降車に時間を要するため、余裕を持ったスケジュールにて行程を設定 ・ 手荷物受け渡し等には、乗務員にはマスク・手袋の着用を要請
降車後	・ 車内清掃時、手すり等頻繁に手を触れる箇所を入念に清拭消毒を実施 - また、カーテン等についても消毒液噴霧により消毒を行い、翌日運行の準備



◎ 関係各所における対策（宿泊編）

場面		対策
入館時		・入館時の混雑緩和を図るためバス車内等にて待機し、順にご案内 ・入口及びロビー内に手指の消毒設備（アルコール等）を設置 ・従業員は常時マスクを着用 ・宿泊施設スタッフと協力し、エレベーターや通路で混雑しない工夫を徹底 ・室長・班長会議を実施する場合、出来る限り換気の良い場所を準備
館内	大浴場	・利用人数の制限を行い、混雑の緩和を企図 ・バスタオルが提供される施設では、浴場での貸しタオルは中止し、客室にタオルを準備 ・定期的に脱衣場ロッカーや備品等の清拭消毒を実施
	食事会場	・座席の配置については、可能な限り間隔や座席の向きについて留意 ・食事会場付近に手指の消毒設備（アルコール等）を設置 ・児童生徒様にも、食事開始までマスク着用をお願いし、最大限予防策を徹底 ・鍋料理や大皿料理等は一人鍋、一人盛りに可能な限り変更対応 また、バイキング料理やビュッフェ料理は、感染防止に留意し工夫を行い提供
	その他	・感染が疑われる生徒・従業員などが発生した場合は、保健所の指導に従った濃厚接触者の隔離消毒等を実施頂きます。

◎ 関係各所における対策（体験/観光・食事編）

場面		対策
体験施設 観光施設	移動時	・エレベーターや通路で混雑しない工夫を徹底 ・施設入場時に手洗いまたは手指消毒の徹底
	体験中 観光中	・感染症対策に関するガイドラインに従った利用が出来るように事前に依頼（空調装置・窓開けによる換気、お客様が触れる機会の多い部分等の定期的消毒等） ・施設内の見学経路や体験等において、可能な範囲で「密」を避ける工夫を徹底 ・複数のお客様が接触する可能性のある部分の消毒を徹底 ・従業員のマスク着用を要請、定期的な検温等健康管理を徹底し、濃厚接触者や体調不良者の業務は停止させ、適切な労務管理を徹底
食事施設	移動中	・エレベーターや通路で混雑しない工夫を徹底 ・館内の設備・売店・トイレ等の利用時、事前に可能な範囲で「密」を避ける工夫を徹底
	食事中	・感染症対策に関するガイドラインに従った利用が出来るように事前に依頼（空調装置・窓やドア開放による換気施設等の定期的な消毒、手洗い・消毒設備の設置、利用者への注意喚起、従業員の指導・管理徹底等） ・参加人数、滞在時間の制限、席の間隔に留意 ・児童・生徒様にも、食事開始までマスク着用協力依頼 ・手指消毒設備（アルコール等）を設置し、入場時手洗いまたは手指消毒を徹底 ・従業員のマスク着用を要請、体調不良者が発生した場合は、速やかに業務から外し、代替りの従業員を業務に就かせるよう要請



《参考》現地対応策チェックリスト（日本旅行業協会）

チェック項目		状 況
1. 従業員等の 健康管理 (ガイド・ドライバー)	1 勤務前に体温測定	(毎日/37.5℃以上は勤務させない)
	2 勤務中の発熱は、即帰宅	(翌日も様子見)
	3 規則的な手洗い、うがいの励行（注）	(毎日・随時/食事前は必ず、うがい薬の持参)
	4 マスクの携行	(毎日/必要に応じて、例えば人込み時、着用)
2. 従業員等の 健康管理 (ホテル・レストラン他)	1 勤務前に体温測定	(毎日/37.5℃以上は勤務させない)
	2 勤務中の発熱は、即帰宅	(翌日も様子見)
	3 規則的な手洗い、うがいの励行（注）	(毎日・随時/食事前は必ず、うがい薬の持参)
	4 マスクの携行	(毎日/必要に応じて、例えば人込み時、着用)
3. 使用する ホテル・レストラン	1 【ホテル】客室の換気と消毒	(毎日/消毒は人の手が触れるところ全て（例えば、ドアノブ・エレベーターのボタン・手摺・肘掛なども）
	2 【ホテル】エレベーターの乗車人数を制限する	
	3 【ホテル】トイレにウエットティッシュを備える	
	1 【レストラン】内部全域の清掃と消毒 (厨房を含む)	(毎日/消毒は人の手が触れるところ全て（例えば、ドアノブ・エレベーターのボタン・手摺・肘掛なども）
	2 【レストラン】食器、箸、ナイフ、フォークの消毒	(毎日/使用前に熱湯、煮沸消毒)
	3 【レストラン】トイレにウエットティッシュを備える	

《参考》現地対応策チェックリスト（日本旅行業協会）

チェック項目		状 況
4. 交通機関関連 (バス・リムジン・タクシーほか)	1 【乗務員】勤務前に体温測定	(毎日/37.5℃以上は勤務させない)
	2 【乗務員】規則的な手洗い、うがいの励行	(毎日・随時/食事前は必ず、うがい薬の持参)
	1 【車輌】内部全域の清掃と消毒	(毎日/消毒は人の手が触れるところ全て (例えば、ドアノブ・ボタン・手摺・肘掛など))
	2 【車輌】車内換気	(毎日・随時)
5. 公共交通機関関係 (航空機、列車)	1 【乗務員】勤務前に体温測定	(毎日/37.5℃以上は勤務させない)
	2 【乗務員】規則的な手洗い、うがいの励行	(毎日・随時/食事前は必ず、うがい薬の持参)
	1 【車輌】内部全域の清掃と消毒	(毎日/消毒は人の手が触れるところ全て (例えば、ドアノブ・ボタン・手摺・肘掛など))
	2 【車輌】車内換気	(毎日・随時)
6. その他 (お客様対応関係)	1 「滞在中のご注意」を到着時に配布	(統一内容)
	2 お客様用体温計を携行	(毎日/ガイド又は添乗員)
	3 お客様の健康チェック	(毎朝/添乗員又はガイド)
	4 ウェットティッシュ (消毒薬入り)、マスクの 一定量確保	(お客様持参/場合によっては現地販売)

◎ 学校様にお願いしている対策

1. 出発当日の検温及び持ち物等について

1) 集合場所では、参加される生徒様の検温をお願い致します。

(自宅検温での報告よりも安全であると判断します)

検温する生徒様の人数により、相応の時間を要することから、余裕をもった集合時間を確保下さい。

出発地から利用する各種交通機関（バス・JR・航空機）の誘導時間・方法については、

関係機関からの指示等にも従いながら、

分散又は時差移動等の手法を考慮しながらのご案内となりますことを予めご理解下さい。

2) 感染防止対策として生徒様に持参して頂く持ち物

マスク（日数分＋予備）・ハンカチ・ティッシュ・体温計・携帯用消毒液又はアルコール入ウェットティッシュ

食事や客室以外での行動中は、マスク着用は基本ですので、ご指導をお願いします。

尚、旅行期間を通じて、添乗員・看護師から生徒様への検温や消毒は原則出来かねますので
予めご理解下さい。

2. 移動時のお願い事項

1) 人が混みあった場所や移動中の車内等での大声での会話は、極力慎むようにご指導下さい。

2) 初日の持参弁当を含め、旅行中の飲食の譲り合いは行わないようにして下さい。

◎ 学校様にお願いしている対策

3. 宿泊施設での過ごし方について

- 1) 宿泊先に到着し、各お部屋に移動する前に必ず一人一人の検温チェックや手指消毒を行って下さい。
検温チェックの場所については、事前の打ち合わせで決められた場所で行うこととなりますが、当日に添乗員がご案内致します。
- 2) 宿泊施設は、ガイドラインに沿った感染防止対策が講じられていますが、自らが感染防止を意識して行動頂くことが何よりもの対策となります為、マスク着用はもとより小まめな手指消毒を励行して頂くようにご指導下さい。
- 3) 食事の際には、入場前の手指消毒、そして食事中以外はマスク着用の指導をお願いします。「いただきます」等の全員での発声は控え、食事中も大声で会話をしないようにご指導をお願いします。生徒様全体への注意連絡は、マイクを使用できる会場であればご準備致します。使用が難しい場合は、各テーブル毎に先生方が手分けし、伝達して頂くようにお願いします。または、生徒様への連絡用としてのホワイトボードをツアーデスクにご準備することも可能です。(ホテルに要確認)
- 4) 客室内では、友達と楽しい会話が弾む空間でもありますが、生徒様には部屋の換気や就寝以外のマスク着用の指導をお願い致します。

◎ 学校様にお願いしている対策

学校は感染した（かもしれない）
ときの対応方を示すことを求めます。

4. 熱発症状やコロナ感染疑義の生徒様の対応について

修学旅行などの宿泊行事では、発熱や腹痛、乗り物酔いなどの症状はよく見受けられることですが、それら諸症状の原因は寝不足や移動の疲れ、食べすぎや冷たいものの飲みすぎなどが挙げられますので、普段の生活と同様の体調管理を徹底して頂ければ、免疫力の低下を防ぎ、ひいては感染防止対策にもつながることと存じます。

1) 体調不良の生徒様の対応について

- ・万が一に備えて、**予め客室を数室手配（有料の場合もあります）**しておくことも有効な対策となります。
参加生徒様の頭割りであれば負担額は少なくて済みます。

2) 発熱や倦怠感を訴える症状の生徒様対応について

- ・同室者全員と具合の悪い生徒様を別々の部屋（場所）に隔離する
- ・同室者への検温や健康管理を確認する（※対象生徒様の症状が判明するまで隔離）
- ・検温を行い、コロナ感染疑義の初期症状を確認し、所轄の病院に連絡し、指示を受ける
- ・その他濃厚接触者と思われる生徒様を隔離（可能な限り1人1室にて対応）

◎ 学校様にお願いしている対策

3) 病院への搬送対応について

- ・当社添乗員及び付き添いの看護師は、病院には随行することは控えさせていただきます。
- ・コロナ感染に関わる治療費は疾病対応の為、学校旅行総合保険や国内旅行傷害保険では補償対象外となります。
- ・保護者が現地に赴く場合の交通費や宿泊代は、加入する保険によっては救援者費用の対象となります。
- ・感染の疑いがある場合、保健所または「帰国者・接触者相談センター」より指定医療機関への診察が必要となりますので、診察の結果により予定の行程を実施することが出来ない場合がございます。
- ・スケジュールの変更に伴うキャンセル料は全額掛かりますので予めご承知おき下さい。
- ・また、追加手配で発生した費用についても別途ご請求させていただきます。

4) その他

- ・感染症の陽性と判断された生徒様を含めて、濃厚接触者の可能性がある他の生徒様が確定した場合、保健所の判断となります。
- ・病院での入院以外に、利用する宿泊施設での経過観察が必要な場合は、**延泊の手配及び宿泊費用の交渉**をさせていただきます。
- ・保護者の方がお迎えに来られる状況でご自宅へお帰りになる場合、他の方への感染の恐れがある為、原則公共交通機関はご利用になれません。
- ・濃厚接触者と認められる基準は、「マスクをせず、1mかつ15分以上の会話をしたか」となりますが、マスクをしていても同室者や行動を共に多くしていた生徒も、保健所や指定医療機関等の判断により検査して頂くこともあります。
- ・濃厚接触の可能性がない他の生徒様の客室での待機や外出等の判断については、学校様と協議させていただきます。

◎ 添乗員からの声

■ 時間に余裕を持ったスケジュール策定が重要!!

検温・消毒、時差誘導等何をするにも通常よりも時間がかかる。



■ 学校様・添乗員・施設/事業者様間の役割分担が重要!!

検温・消毒（声掛け含む）、各配布物の受け渡し、感染症疑義発生時等、誰が・いつ・どうやって行うのか？

■ 行動の分散化・一般団体等とのバッティングを避ける工夫が必要

トイレ・エレベーター等複数個所の案内、見学・案内ルート of 複数設定（階段利用）、時間差行動等

■ あると有難いもの ・館内放送、ポータブルスピーカー

・予備の部屋/スペース

・ホワイトボード

・マスクケース（食事中、ビニール袋程度でOK）

・学生用の案内書面（守ってほしいことや注意して欲しいこと） 等



一般のお客様の“当たり前”が
学生さんだと危ういことも